

提言第12号 胸腔穿刺に係る死亡事例の分析

事例1

< 事例概要 >

- ・ 80 歳代、抗血栓療法中の患者。
- ・ 心臓手術後の左胸水貯留に対し、心臓血管外科で胸腔穿刺を実施。
- ・ 事前にX 線画像で胸水の貯留を確認。穿刺部位は、左第 5 肋間前腋窩線を選択。
- ・ 試験穿刺で胸水を確認。本穿刺中、内套針を抜いたところ吹き出すような血性排液が約 800 mL あり、カテーテルをクランプ。いったん開放するが排液流出が持続し、再びカテーテルをクランプ。約2,000 mL の血性排液を認め、緊急開胸手術を実施するが、当日死亡。
- ・ 死因は、心臓（左心室）損傷による出血性ショック。死亡時画像診断（Ai）無、解剖無。